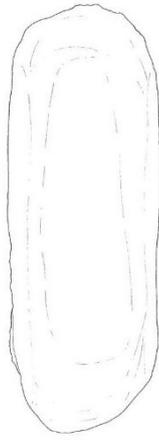


大石棒展

1 石棒とは？

石棒は縄文時代の磨製石器の一種で、断面形状が円形もしくは楕円形で形成された長い棒状品であり、両端または一端をコブ状に加工したものが多く存在します。この加工したコブ状部分を「頭部」と呼び、その位置と有無によって両頭・単頭・無頭石棒と判別します（図1）。

図1 石棒の種類

		
【両頭石棒】	【単頭石棒】 (V状隆帯あり)	【無頭石棒】
〔全長 49 cm、最大径 14 cm〕 片倉館（長野県） 寄託品 ⁽¹⁾ 〈未展示品〉	〔残存長 94 cm、最大径 15 cm〕 妙川寺遺跡（富山市） 採取品 ⁽²⁾ 〈展示品〉	〔全長 26 cm、最大径 10 cm〕 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡（富山市） 出土品 ⁽³⁾ 〈展示品〉

石棒は縄文時代前期（6000～5000年前）の東日本で出現し、北海道から九州まで分布しています。特に中期（5000～4000年前）の北陸・中部・関東の各地で大型化し、最大の石棒は長野県佐久穂町に残る「北沢大石棒」で2.2m以上になります⁽⁴⁾。しかし、後期（4000～3000年前）や晩期（3000～2400年前）以降には、小型化し、やがて終焉を迎えます。

石棒は、石斧や石皿などの日常用具である「第一の道具」ではなく、非日常用具である「第二の道具」のひとつと考えられており、呪術や祭祀といった「精神文化」に関わる場面で、使用される祈りの道具と推定されています⁽⁵⁾。

石棒は「頭部＝端部のコブ状加工」という特異な形状から、生殖器型祭具⁽⁶⁾とも呼ばれ安産・多産や大地の豊穡を祈る祭祀用具と考えられています。また石棒が「屋外に立てて祀られていた」と思われることから、立石の一種という説もあります⁽⁷⁾。さらに、石棒は住居内にも配置される事例もあり、祭壇のような場所での屋内祭祀において重要な役割を果たしていた⁽⁸⁾と考えられています。一方で墓に副葬される事例もあります。なお、破損している石棒は外側から力を加えて壊したのではなく、石棒を火に投じて壊れたのではないかとの説⁽⁹⁾もあります。

2 展示品の解説

今回展示している「大型石棒」は、石棒の長さよりも幅（最大幅）に注目しました。これまでの研究によって、幅 10cm 以上の石棒を大型石棒としていることから、この基準で選定しました。ちなみに 5 cm 程度以下の石棒は「小型石棒」と分類するようです。石棒の大小は石材に関係⁽¹⁰⁾しており、縄文時代中期には大型の石棒が製作される傾向があることから、花崗岩や安山岩のような硬い石材が選択されています。大きく作るために折れにくい石材を選んだと考えられています。ただ、凝灰岩のような加工がしやすい石材も使用されており、このような石材は加工しやすい一方で、簡単に折れないように幅を太くしていたのかもしれませんが。

後期以降には石棒が小型化し、沈線のような文様を施すために、粘板岩のような緻密な素材が選ばれています⁽¹¹⁾。石棒の石材判別は、形状とともに石棒の年代を推測する手立てにもなるかもしれませんが。

3 展示品目録

番号	遺跡名	全長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (kg)	状態	石棒の 種類	縄文時代 時期	石材
1	妙川寺	(94.0)	15.0	(25.5)	先端部喪失	単頭	中～晩期	凝灰質 砂岩
2	婦中町 田島地内	81.9	17.5	37.0	完形 変色有	単頭 (両頭?)	中～後期 (?)	凝灰岩
3	開ヶ丘狐谷Ⅲ	26.2	10.1	3.5	ほぼ完形 変色有	無頭	中期	花崗岩
4	春日	(45.0)	17.0	(16.1)	頭部残存	—	中期	凝灰質 砂岩
5	北代	(20.0)	13.0	(3.6)	頭部残存	—	中期	凝灰岩
6	稗田 (現・文珠寺稗田?)	(19.0)	13.0	(2.9)	頭部残存	—	中期	凝灰岩

※展示にあたって、考古資料館の協力を得ました。石材の同定については富山市科学博物館の協力を得ました。

(注：カッコ内数値は残存部)

註

- (1) 大矢昌彦 1977 「石棒の基礎的研究」『長野県考古学会誌 28』長野県考古学会
- (2) 小島俊彰 1986 「鏝をもつ縄文中期の大型石棒」『大鏡 第10号』富山考古学会
- (3) 富山市教育委員会 2003 『富山市開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡 開ヶ丘中山Ⅰ遺跡 開ヶ丘中山Ⅳ遺跡 開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書 一 富山県埋蔵文化財発掘調査報告 (5) 一』
- (4) 佐久考古学会 2020 『縄文の石神 北沢の大石棒』(パンフレット)
- (5) 小林達雄 1997 「第一の道具・第二の道具」『縄文と弥生』クバプロ
- (6) 田中琢ほか編 2002 『日本考古学事典』三省堂
- (7) 後藤和民 1981 『縄文人の謎と風景』廣済堂出版
- (8) 新津健 2007 「石棒の信仰」『季刊考古学 第99号』雄山閣
- (9) 鈴木素行 2019 「大型石棒のヘソ」『季刊考古学 第148号』雄山閣
- (10) 大工原 豊ほか編 2020 『縄文石器提要』ニューサイエンス社
- (11) 能登 健 2011 『列島の考古学 縄文時代』河出書房新社